

2022年度 国士舘大学男子柔道部：全日本柔道選手権優勝報告

A Report on the Performance of Kokushikan University's Judo Team : 2022 All-Japan Judo Championships

吉永 慎也*, 鈴木 桂治*, 成田 泰崇**, 高橋 和彦***, 岩尾 敬太****
佐藤 雄哉****, 田中 力*, 山田 裕太*****, 山内 直人*

Shinya YOSHINAGA*, Keiji SUZUKI*, Yasutaka NARITA**
Kazuhiko TAKAHASHI***, Keita IWAO****, Yuya SATO*****
Chikara TANAKA*, Yuta YAMADA***** and Naoto YAMAUCHI*

1. はじめに

平素より本学柔道部への多大なるご支援、ご声援を賜りまして誠にありがとうございます。柔道部の目標は大学日本一になる事と、日本代表選手を輩出する事であり、日本代表を目指す上で、全日本柔道選手権大会は非常に重要な大会であり、今年度は本学柔道部から齊藤立（体育学部武道学科3年）と中西一生（体育学部武道学科4年）が出場しました。結果としては、中西が2回戦敗退、齊藤が優勝を果たしました。

学生の全日本選手権優勝は2008年の石井慧（本学体育学部武道学科卒）以来の快挙であり、これもひとえに国士舘大学柔道部を応援して下さる関係者各位のご支援の賜物と心より感謝しております。この場をかりてお礼申し上げます。本報告書では、今年度の全日本柔道選手権大会の活動についてご報告させていただきます。

2. 全日本柔道選手権大会

本大会は2022年4月29日、武道の聖地である

日本武道館において開催された。直近2年間はコロナ禍の影響で講道館での無観客開催を余儀なくされており、少し寂しさもあったが、久しぶりの日本武道館、有観客での開催ということもあり一層の盛り上がりを見せた。特に1試合目がはじまると、観客席からは拍手が沸き起こり会場を包み込んだ。選手も観客も待ちに待った大会となった。

体重無差別で行われる全日本柔道選手権大会は、推薦選手と各都道府県大会・ブロック大会を勝ち抜いた総勢47名で試合を行う。試合形式はトーナメントで行い、本戦は4分。4分で決着がつかない場合は延長戦をもって決着をつける。また、全日本柔道選手権大会の特徴は、日本武道館の中心に設置された一試合場のみで試合が進められるため、独特の雰囲気と緊張感が漂う大会である。今回の優勝候補としては、本大会優勝経験者の太田（旭化成）、羽賀（旭化成）、原沢（長府工業）、世界選手権優勝の影浦（日本中央競馬会）を軸に、伏兵としては東京オリンピック金メダリストの大野（旭化成）、高藤（パーク24）、また小川直也氏の息子である小川雄勢（パーク24）

* 国士舘大学体育学部 (Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

** 国士舘大学教務部 (Academic Affair Section, Kokushikan University)

*** 国士舘大学職員 (Kokushikan University Staff)

**** 京葉ガス (Keiyo Gas co.,Ltd)

***** 国士舘大学体育学部体育研究所

(Institute of Health, Physical Education and Sports Science, Faculty of Physical Education, Kokushikan University)

***** 国士舘大学大学院スポーツ・システム研究科 (Graduate School of Sport System, Kokushikan University)

が名を連ね、このメンバーに加えて全日本柔道選手権大会出場2回目の斉藤立（体育学部武道学科）が挙げられていた。

3. 試合経過（中西一生・体育学部武道学科4年）

①一回戦…対 高木育純（香川県警・90kg級）

右組同士、階級も90kg級同士の対決。中西が序盤から背負投で積極的に試合の主導権を握る。開始1分26秒袖釣込腰から大外刈の連続攻撃が決まり、中西の一本勝ちで二回戦に進む。

②二回戦…対 相木飛磨（北海道警察・100kg級）

試合開始序盤から、中西が足技や背負投を中心に攻めて主導権を握る。攻め続けた中西が相木から指導を2つ奪い、本戦が終了。延長戦に突入する。延長戦でも攻め続けるものの、不用意にかけた背負投を返され技有を奪われて敗退。勝負の難しさを改めて感じる試合となった。

4. 試合経過（斉藤立・体育学部武道学科3年）

①二回戦…対 前田宗哉

（自衛隊体育学校・90kg級）

斉藤はシードの為二回戦からの試合となった。初戦の相手は90kg級の全日本実業団で優勝した前田。斉藤左組み、前田右組みの対決である。斉藤は序盤から大内刈、大外刈で攻めるものの、前田も大外刈をかけて抵抗する。技の応酬、激しい組手争いで瞬間に本戦の4分が終了。延長戦に入ると前田の動きが少しずつ悪くなり、延長戦1分12秒、斉藤の内股が決まり一本勝ち。初戦を突破した。

②三回戦…対 上田轄麻（日本製鉄・100kg超級）

上田は斉藤が過去2敗している相手であり、優勝を目指す上で序盤の難関であった。組手は両者

左組み。斉藤は積極的な組手から大内刈、内股で攻めていく。防戦一方の上田に対して指導3つが累積され試合終了。斉藤はベスト8に進出する。

③準々決勝…対 一色勇輝

（日本中央競馬会・100kg超級）

一色は三回戦でリオデジャネイロオリンピック3位の羽賀を破り、上がってきた強豪選手である。斉藤は左組み、一色は右組。序盤に組手争いで両者に指導1が入る。その後も激しい組手争いが繰り広げられるが、試合中盤に斉藤が相手の襟と裾を持ち、やや組手不十分ではあったものの強烈な引きつけから大外刈をかけて技有。そのまま一色を抑え込み、合技一本。準決勝に進出する。

④準決勝…対 原沢久喜（長府工産・100kg超級）

準決勝の相手はリオデジャネイロオリンピック銀メダリスト・東京オリンピック代表選手である原沢。斉藤は左組み、原沢は右組みである。両者厳しい組手争いが続く中、やや消極的な組手の原沢に指導が入る。その後、両者内股や足技で攻めるものの共に決め手はなく、本線が終了。延長戦に入ると斉藤がやや優位に大外刈等で攻めに出ると、原沢に対して2つ目の指導。その後も内股、体落、更に攻撃を続けると延長5分50秒、3つ目の指導が原沢に入り試合終了。斉藤の一本勝ちによって、初の決勝に進んだ。

⑤決勝…対 影浦心

（日本中央競馬会・100kg超級）

決勝の相手は2021年世界選手権優勝の影浦である。斉藤も厳しいトーナメントを勝ち進み決勝まで来たが、影浦も同様、小原（パーク24・81kg級）小川（パーク24・100kg超級）などの日本のトップレベルの選手を倒して決勝まで勝ち進んだ。両者どちらが優勝しても初優勝。組手は両者左組み。激しい試合が予想された。

開始30秒、影浦が得意の背負投で斉藤を攻めるものの、斉藤も落ち着いて対応し得意の寝技で

攻める。その後も激しい組手争いの中、斉藤は組手で圧力をかけ続ける。影浦は圧力をかわしながら背負投で抵抗。本戦残り13秒の所で斉藤の組手を嫌がった影浦に一つ目の指導が入り本戦終了。

延長戦突入後は、影浦が背負投、小内刈で斉藤を攻める。守りに入った斉藤に一つ目の指導が入り、ポイント上は五分になった。この指導ももらった直後に、両襟をしっかりとって再度に出た大内刈で影浦を攻めると2つ目の指導が影浦に入り、斉藤が優勝に王手をかける。しかしここから影浦も気力をふり絞り、払巻込や背負投で斉藤を攻める。延長戦も10分を過ぎ、両者極限状態で技を出し続けて一進一退の試合が進む中、斉藤が最後の力を振り絞り、足車で影浦を投げて技有を奪い試合終了。14分21秒の熱戦であった。

5. 全日本柔道選手権を終えて

中西に関しては、試合を優位に進めていても敗退するという勝負の難しさを学び、斉藤に関して

は、全日本柔道選手権で勝ち上がる精神的・身体的辛さを学ぶ事ができた。特に斉藤は、2024年のパリオリンピック日本代表を狙う上で、どうしても優勝が欲しい状況の中、目標を達成できた事は大きな前進となった。全ての試合が苦しい試合ばかりではあったが、試合を勝ち進むにつれて粘り強く戦った。

また、この結果で斉藤は、2022年の世界選手権代表にも選出された。決勝で戦った影浦選手が2021年の世界選手権優勝者であった為、選考においては斉藤がやや不利かと思われたが、国際大会の優勝と直接対決で影浦選手に2度勝利した実績が評価されての選出だった。10月の世界選手権では、オランダ、ドミニカ、ウクライナ、タジキスタンの選手を破り決勝まで勝ち進んだ。決勝ではキューバの選手に敗れたものの、初出場で堂々と戦い抜き銀メダルを獲得した。全日本柔道選手権・世界選手権というこの二つの経験は、パリオリンピック優勝に向けて大きな経験値となった。



6. 終わりに

激戦区である全日本柔道選手権東京予選を2名の学生が勝ち進み、全日本柔道選手権において内1名が優勝という結果を残せた事は、国士舘大学をはじめ様々な関係者の支えによるものであり、

改めて感謝申し上げます。しかし、全日本柔道選手権の優勝者を輩出したものの、学生の団体戦においては日本一が未達成の年となりました。2023年度こそ、指導者・学生の力を合わせて団体日本一を達成できるよう日々精進していきますので、今後とも変わらぬお力添えをお願い申し上げます。

